目　次

1　研究主題に関する図画工作・美術科の基本的な考え方 …… 1

2　授業研究 …… 2

（1）つくる体験と鑑賞を結び付け，表現と鑑賞の活動を通して，色，形，材料などに進んで働きかけながら学ぶことができる学習題材の設定。

【授業研究１】 自ら考え，工夫して表現できる力を育てるための指導方法の工夫
－小学校第６学年における「〇〇になったつもりで」の指導を通して－ 2

【授業研究２】 自分の表したい感じに適した方法を選んで表現できるようにする学習指導の在り方　－中学校第1学年「合唱曲を描こう」を通して－ … 8

（2）感じ取ったイメージをもとに思考，判断，表現する学習を充実するための学習過程及び，表現方法の工夫。

【授業研究３】 見方や感じ方を深める鑑賞指導の在り方
小学校第５学年「水墨画に親しもう」における指導の工夫を通して … 14

【授業研究４】 中学校第２学年「息づく空間」における表現や鑑賞の情報を得るプロセスを通して自己の表現力育成につなげる学習指導の在り方 …… 20

3　研究のまとめ …… 26

1　図画工作・美術科における基本的な考え方

(1)　図画工作科における豊かな学びについて

平成17・18年度の教科に関する研究の中で，図画工作・美術科における「豊かな学び」については，児童生徒一人一人が，図画工作・美術科の基礎的能力を確実に身に付け，持てる力を自在に働かせながら，思いのままに表現や鑑賞の学習に取り組み，その学習過程や結果を，自らの学びとして実感できる学びであるととらえている。

(2)　図画工作科における「児童生徒の豊かな学びをはぐくむための授業の創造」

図画工作・美術科の学習指導では，習得した基礎的技能を自分にとって必要な創造的な技能に高めていけるよう，形，色，材料，場所，人などに感性を働かせながら働きかけ，表したい内容をどう表すかを構想し，自分の思いに，よりふさわしく美しい構成の仕方や表現方法を工夫できるようにすることが必要である。このような学習活動を通して，発想・構想する力，工夫し追求する力，必要な技術を学ぶ力などがはぐくまれていく。そのためには，児童生徒一人一人が自分の発想や構想をもとに，基礎的技能を身に付け，身に付けた力の生かし方を自分なりに工夫・追求でき,美術の基礎的な能力を高めていけるよう，習得と活用のバランスのとれた授業の構成が重要であると考える。

また，実態調査の結果から，児童生徒は校種が進むにつれ,「自分の学習進度や興味・関心に合わせた授業や，基礎的なことをしっかり教えてくれる授業を望んでいる。」という回答が多いことも明らかになっている。

それらのことをふまえると，児童生徒が楽しく学び，基礎・基本を身に付け，自ら学び考え判断しながら思いを形にしていけるように，形や色，材料に働きかける題材を工夫し，表現方法を選択したり，学び合いを充実したりする学習活動を展開すること，また，その学習過程や結果を児童生徒及び，教師が共に確認でき，児童生徒自らの学びとして実感できること，などに意をもって授業を構築することが，図画工作・美術科における「児童生徒の豊かな学びをはぐくむための授業の創造」につながると考える。

(3)　主題に迫る手立て

以上のような基本的な考え方をもとに図画工作・美術科における「児童生徒の豊かな学びをはぐくむための授業の創造」につながる授業構築の方向性を，児童生徒が色，形，材料などに進んで働きかけながら，基礎的・基本的な知識，技能を習得し，思考・判断し，表現できる学習活動を充実させ，美術の基礎的な能力の育成をめざすことと押さえた。このような方向性をもとに，次のような手立てを用い，小学校２校，中学校２校で実践し分析・考察した。

ア　製作体験と鑑賞を結び付け，表現と鑑賞の活動を通して，色，形，材料などに進んで働きかけながら学ぶことができる学習題材の設定

イ　感じ取ったイメージをもとに思考・判断し，表現する学習を充実するための学習過程及び，表現方法の工夫

2　授業研究

【授業研究１】　自ら考え，工夫して表現できる力を育てるための指導方法の工夫
―小学校第６学年における「〇〇になったつもりで」の指導を通して―

(1) 研究のねらい

絵に表す活動は，高学年になるにつれて苦手意識が強まってくる傾向にある。本クラスでも，アンケート結果によると，絵で表すことに苦手意識をもっている児童が多い。写実的な表現へのあこがれから「見たように描かなければいけない」という意識が強くなるために, 自分の表現に自信をもてなくなることがその理由の一つとして考えられる。そこで,「いろいろな表現方法があること」「個性的な表現は大切であること」への意識の転換を図り，自ら考え，工夫して表現できる力を育てるための指導方法を検討することが必要であると考えた。

そのための指導方法の構想としては，第１に，表現と鑑賞が一体的に補い合える学習過程の工夫があげられる。鑑賞の授業を通して絵画作品の見方や感じ方を広げ，製作の段階では，気付いた表現を自分の作品に生かしていくことのできる構成を考えた。第２に，個のつまずきに応じた指導計画があげられる。製作過程において予想される個のつまずきを分類し整理することで,「教えること」と「育てたり引き出したりすること」を明確にし，個の特性を大切にした指導ができるようにしたい。第３は，創造的な活動の基礎となる感性を育てたり互いに学び合ったりするための環境の工夫である。

このような指導を積み重ねていくことが，自分らしい表現を大切にする気持ちを育てていくことにつながるのではないかと考える。

(2) ねらいに迫るための具体の手立て

ア　鑑賞で学んだ見方が表現に生かされる学習過程の工夫

児童はこれまでの自分の経験から好ましい作品のイメージや，構想や，描き方を考えている。「見たままに描くことがよい絵」という意識も「絵を鑑賞する」という経験不足がその原因の一つではないかと考えた。そこで，本題材では鑑賞で学んだ見方をもとに表現することができるように，第１次に自分の描き方で描く，第２次に色々な表現方法の作品の鑑賞を行い作品のイメージを広げる，第３次に「ピカソ（キュビズムの時代)」「ゴッホ」「自分で選択した画家」の順序でそれぞれの表現方法の中から自分で見つけた描き方を生かして自画像を描く，という学習過程を計画した。第１次に「自分の描き方で描く」を計画に入れた理由は，作品製作の中心となる自分の顔を「よく見る」ことができるようにするためと，その後の鑑賞の授業において，自分の描き方と比べて様々な表現を印象付け，新しい表現に向かって意欲を高めさせたいと考えたからである。第２次の鑑賞の授業では，見つけた表現方法を自分の作品製作に生かすことができるように「色，筆のタッチ，形」の３点を見るポイントとして絞った。そのために,「親しみやすい作品」「色々な表現を感じ取ることができる作品」「３つの鑑賞のポイントがとらえやすい作品」を選んで提示した。第３次の製作の段階では，ピカソの作品からは自由なものの見方や表現方法を，ゴッホの作品からは筆のタッチによる効果や形のとらえ方を感じ取り自分の表現に生かすことをねらいとした。また，ピカソ，ゴッホ，自分で選択し

た画家と進むにつれ，徐々に一人一人の感性に任せて製作できるようスモールステップの構成にした。児童の実態を考えて見る観点を三つにしぼったが，児童の学習状況によっては，その表現方法にこめられた画家の意図を感じ取りながら描くことができることを期待した。また用紙は，抵抗なく取り組める大きさを考え，Ｂ５サイズとした。

イ　つまずきに応じた指導方法の構想

児童自身の力でつまずきを解決できるための手立てを教師が考えておくことは，意欲を持続させ,力をつけさせるために有効であると考える。そこで,本題材において予想される個のつまずきを分類し，指導の内容を検討することとした。つまずきの具体的な事象は高浦浩氏の「つまずきの発生メカニズム」[注1)]の考えを参考にしながら，各製作過程における予想されるつまずきの内容は，過去の指導の実態から予想し分類したものである。（表１）

表１　「○○になったつもりで」の製作の段階で予想されるつまずき

製作過程	つまずきの具体的な事象	予想されるつまずきの内容
構想 （全過程）	構成の決断ができない	①　画家の作品の特徴を見つけることができない。 ②　見つけた特徴の生かし方が決まらない。　など
下描き	構図が決まらない	③　画面の大きさに合わせて描くことができない。 ④　人物以外のモチーフの入れ方が決まらない。　など
	形を描くことができない	⑤　見て描く方法が身についていない。 ⑥　自分で線を決定できない。 ⑦　デフォルメができない。　など
	紙の表面が傷んでしまう	⑧　裏に描いてしまう。 ⑥　自分で線を決定できない。　など
彩色	画家の作品を基にした，彩色の全体的な構想がつかめない	⑨　色を決められない。 ⑩　色のつくり方が分からない。 ⑪　表現に合った適切な水の分量が分からない。 ⑫　表現方法に応じた筆の選択が適切でない。 ⑬　筆のタッチの特徴を生かしきれていない。　など
	画面を汚す，紙をいためる	⑭　彩色の順序が分からない。 ⑮　乾かないうちに次の色で描く。　など

つまずきを，内容ごとに検討した結果，予想されるつまずきの内容①～⑦⑨⑬は個の主観に関するつまずきである。そこで，「引き出したり育てたり補ったりする」ことを原則として指導する。予想されるつまずきの内容⑧⑩⑪⑫⑭⑮は，材料や道具の使い方に関するつまずきである。そこで，「教える」ことを原則として指導する。また，児童の実態から，全体に指導する内容と個に応じて指導する内容を分けて考えることとする。指導に当たっては，教師の押し付けにならず，個に応じた柔軟な関わり方をするよう心がけたい。

ウ　環境の工夫

(ｱ)　活動の場の工夫

製作の場には，表現方法の特徴を参考にしながら製作を進めることができるように，作品の写真や画集をおいておく。また，画家を選択して描く段階では，必要に応じてお互いの活動を参考にできるように，同じ画家を選択した児童同士が近くで製作することができるように座席を配慮する。さらに，一人一人のめあてを小黒板に書き，自分のめあてを確かめながら製作を進められるようにしたい。

(ｲ)　教室環境の工夫

指導計画の２次で鑑賞した作品を中心に，教室に掲示しておく。また，学級文庫に作品が紹介されている本を置き，自分の興味に合わせて自由に見ることができるようにする。自然に児童の目に作品が触れるようにしておくことは，意欲を高めたり表現方法に対する

気付きを促したりするうえでも効果があると考える。

(3) 授業の実践

ア　題　材　○○になったつもりで

イ　目　標

○　画家の作品の表し方に興味をもち，そこから新たな表し方に取り組もうとする。
(造形への関心・意欲・態度)

○　画家の作品から見付けた表し方の特徴をもとに，どのように描いていくか構想を練り，表し方を工夫することができる。(発想や構想の能力)

○　形の表現や絵の具の使い方を工夫して，表し方の特徴を表すように描くことができる。
（創造的な技能）

○　様々な作品を鑑賞して作品の特徴について話し合い，特徴をとらえたり，よさを見付けたりすることができる。（鑑賞の能力）

児童の実態　（男８人，女６人，計 14 人）　平成 19 年９月 18 日実施

とても楽しい　←　4　3　2　1　→あまり楽しくない

1　絵で表すことは楽しいか。　4･･･2人　3･･･4人　2･･･7人　1･･･1人

2　絵で表す時に困ることは何か。

○思いつかないこと･････････････････9人

○思ったように描けないこと･････････13人

①見たように描きたいが難しい･････12人

②彩色で画面が汚れる･･･････････････8人

③想像したように描けない･･････････3人

[①の理由]
・形がかけない 10 人
・彩色の方法が分からない５人
・色の作り方が分からない４人
・彩色の順序が分からない２人

3　絵を鑑賞することは好きか･････････4人

4　美術館に行った事があるか。　ある･･･7人　ない･･･7人

5　画集を見た事があるか。　ある･･･4人　ない･･･10人

ウ　評価規準及び学習の計画

(ｱ)　題材の評価規準

4つの観点（評価方法）			
造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
作品の様々な表し方に関心をもって見たり，作品の表し方の特徴から感じた新たな表現方法を進んで試みたりしようとする。（観察，学習カード）	画家の作品から見付けた特徴をもとに作品の表し方を構想し，工夫して表現することができる。（観察，作品）	水彩絵の具を効果的に使って見付けた表し方を試しながら描くことができる。（観察，作品）	様々な作品の表し方を見て，その特徴について話し合い，特徴をとらえたり友だちの作品のよさに気付いたりすることができる。（観察，学習カード）

(ｲ) 学習計画（13 時間取り扱い）

次	時	学習内容	関	発	創	鑑
1	1	・コンテで自画像を描く。	○			
2	1	・いろいろな画家の描いた「顔」の作品を鑑賞し，表現方法について話し合う。	○			○
3	10	・ピカソ，ゴッホ，選択した画家の順に，それぞれの画家の描き方の特徴を生かして自画像を描く。（本時は第９時）		○	○	
4	1	・自他の作品を見ながら，感想を話し合う。				○

エ　本時の学習

(ｱ) 目標

画家の描き方の特徴をもとに工夫して彩色をすることができる。

(ｲ) 準備・資料

作品の写真【Ａ４判】と画集（モディリアニ，ゴッホ，ローランサン，ムンク，ルノワール等)，学習カード，絵の具の使い方に関する資料

(ｳ) 展開

<table>
<tr><th>学習活動・内容</th><th>指導及び支援・評価　評は評価</th></tr>
<tr><td>1　本時の学習課題をつかむ。

見つけた特ちょうを生かして彩色しよう。

2　一人一人の構想に基づいて製作する。
【予想される児童の気付き】

<table>
<tr><td>ムンク</td><td>・ 流れるような曲線
・ はっきりしない輪郭
・ 暗い感じの色づかい
・ 印象的な赤や朱色</td></tr>
<tr><td>ゴッホ</td><td>・ 短い線で描写
・ いろいろな色
・ 盛り上がった絵の具
・ 背景に花</td></tr>
<tr><td>モディリアニ</td><td>・ 細長い顔
・ なで肩
・ 瞳が描かれていない目
・ 落ち着いた色づかい</td></tr>
<tr><td>ローランサン</td><td>・ 大まかにとらえている
・ 大きな瞳
・ はっきり見えない鼻
・ 白っぽい色合い</td></tr>
<tr><td>ルノワール</td><td>・ 柔らかなタッチ
・ 本物に近い表現
・ いろいろな色</td></tr>
</table>

⇩

【彩色の工夫】
・色づかい
・にじませるように描く。
・厚みのある感じに描く。
・筆のタッチがよく分かるように描く。
・平らな感じに描く。
・筆を動かす方向を工夫して描く。

3　本時のまとめをし，次時の課題をつかむ。
(1)　学習カードに自己評価をする。
(2)　次時の予定を知る。</td><td>○製作を進めながら実際に作品を見て，描き方の特徴を確かめることもできるように，画集や作品の写真を準備する。
○適宜自分の製作に生かすことができるように，既習の水彩絵の具の使い方（水の分量や筆のタッチによる効果の違い）に関する資料を掲示しておく。
○画家のどのような描き方を生かして彩色したいか，一人一人の目標を小黒板に書き確認することで，ねらいを明確にして製作することができるようにする。
○必要に応じてお互いの活動を参考にしたり，同じ画家を選択した児童同士が近くで製作したりできるように座席を配慮する。
○彩色の順序は，画面が汚れないようにするために，次の４点を最初に指導する。
① 混色は３色まで。
② 乾いてから隣の色を彩色する。
③ 細かなところは後から彩色する。
④ 黒などの濃い色は最後に使う。
○工夫している点を大いに認めることを個別指導の基本としたい。
○なかなかとりかかることができない児童には，表現の意図を確かめ，どこから描き始めるかを相談したい。
評　画家の描き方の特徴をもとに工夫して彩色をすることができる。
（創造的な技能：児童の観察，作品）
〈努力を要する状況の児童への手だて〉
・描き方の特徴を表すのが難しく製作が進まない児童には友達の作品を紹介したり，例を示したりして，そこから活動ができるように支援する。
・目的に沿った活動ができにくい児童に関しては，自己の目標を繰り返し確認させ，工夫して彩色できるように支援する。
○学習カードに自己評価することで，本時の学習への取組みを確認し，次時への意欲につなげたい。</td></tr>
</table>

(4) 授業の分析と考察

ア　鑑賞で学んだ見方が表現に生かされる授業構成の工夫について

事前調査では「絵を見ることは好き」と回答をした児童は７人であったが，２次の鑑賞

の授業後の振り返りでは，全員が興味を持って取り組めたと回答をしている。その理由のほとんどが「色々な表現方法があることが分かって楽しかった。」というものである。授業のねらいを踏まえて，ピカソ，ゴッホ，ムンク，モディリアニ，ルノワール，ボテロの作品を選択したが，表現方法への関心を高める上で効果的であったと捉えられる。また，鑑賞する観点を「色，筆のタッチ，形」の３点に絞ったことで，誰もが特徴をとらえることができたことも意欲的に活動できた一因と考える。さらに，一人一人の発見が全体の知識として共有され，作品製作にもよい影響をもたらした。

スモールステップで作品づくりに取り組んだことは，児童にとって次の点で有効であった。一つ目は，児童が安心して活動することができたことである。４枚の自画像を描くという繰り返しや，一つの作品はＢ５サイズという大きさから，児童は「自分にもできそうだ」という意識で取り組むことができたと考える。二つ目は，回を追うごとに筆のタッチを工夫するなど，自分で考えて表現できる児童が増えたことである。特に，ピカソの自由な形や色づかいは，児童の概念を大きく覆したようであり，その後の製作においては，絵を描くことに対して消極的だった児童も，画集等で調べたり確認したりしながら，表現の特徴を自分の作品に取り入れるようになった。

イ　つまずきに応じた指導方法の構想

指導方法を，「引き出したり育てたり補ったりする」「教える」と分類して考えたことで，全体や個に対して見通しをもって指導に当たることができた。事例を挙げてみる。

【形を描くことができない】
○何度も描き直しをしていたので声をかけたところ，襟の部分がうまくできないというつまずきであった。「画用紙と鏡と自分の位置」「顔を動かさず目を動かして描くこと」「画用紙に描いた線と鏡に映った襟の輪郭線を比べながら描くこと」の３点をアドバイスし，最初の線をいっしょにたどってみた。その後，見て描く方法をその児童なりに納得し，自分で襟の部分を完成することができた。
【構成の決断ができない】
○背景で悩んでいたが，画集を一緒に見ながら児童の考えを聞くことで児童は自己決定ができた。また，そのように表現するための彩色の順序や絵の具の水の分量については，製作の様子を見て教えた。

「思ったように描くことができる」と回答した児童は，事前調査では１人であったが，題材終了後の振り返りでは 14 人中 11 人と増加している。このことからも，つまずきに応じて指導方法を構想し，個に応じて細やかな指導を行ったことは，一人一人の表現欲求に適切に対応でき，表現する力を伸ばすために効果的であった。

グループごとの活動の場

ウ　環境の工夫

(ｱ)　活動の場の工夫

作品の写真や画集を活動の場に置いておくことで，児童は，画家の表現の特徴を必要に応じて参考にし，工夫して活動できた。また，表現の方法が決まらず悩んでいる児童には，いくつかの作品を提示しながら相談にのることもできた。さらに，同じ画家を選択した児童が同じグループで製作することで，一人

の気付きが他の児童の表現に生かされる場面も見られた。一人一人のめあてを小黒板に板書しておいたが，児童がめあてを確認しながら製作を進められるだけではなく，指導者もめあてを達成するための指導やアドバイスができた。

（ｲ）教室環境の工夫

教室に画家の作品を掲示しておいたところ，児童は休み時間に作品を見たり，給食の時間に絵のことが話題となったり，作品が児童の身近になった。さらに，読書の時間にも，ゴッホやモディリアニの絵本を読む姿が見られるようになり，美術作品や作家への関心が高まっていったことが感じられた。

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

・画家の作品の鑑賞を，学習過程の第２次に行ったことは，児童の絵に対する見方を広げ表現への意欲を高めるために効果的であった。また，鑑賞では作品を見る観点を絞ったので，誰もが自分の力に応じた気付きができた。また，個の気付きをみんなで共有し，その後の製作に生かすことができた。

・スモールステップで作品製作に取り組んだので，意欲が持続し無理なく力を伸ばすことができた。また，２次で学習した表現方法の見方を生かし，児童はよく考え工夫して表現することができた。さらに，自分だけの表現方法を発見して製作に生かす児童も見られた。今後このような学習を続けていくことで，自分らしい表現を大切にしたり，自分なりの価値をつくりだしていったりする児童が育つという期待がもてた。

・製作の段階で予想される個のつまずきとそれに対する指導の方法を分類して指導にあたったが，一人一人に応じた細やかな指導をすることができ，意欲を高めたり表現技能を伸ばしたりするという点で効果的であった。

・作品が常に身近にあるという環境は，作品への興味や作品製作の意欲を高めるために効果的であった。また，児童自身が資料として参考にしながら作品をつくり進めことができた。さらに，個人の目標を明記しておくことで児童一人一人が自分の目標を確認しながら活動したり，児童の願いにそった指導をしたりすることができた。

イ　今後の課題

画家の表現の意図を意識できた児童は，自分の内面に照らし合わせながら，その特徴を生かして表現することができていた。鑑賞の授業では，「色，筆のタッチ，形」の３点にしぼって行ったが，画家の表現の意図を考えることができるような指導方法を工夫すれば，さらに児童の個性を生かした表現につながっていったのではないかと考えた。また，個の気付きを大切にしながら指導に当たったが，既習の学習内容を生かしきれなかった部分も見られる。特に色作りの場面でその傾向が見られた。個性を生かした多様な創造的活動を行っていくための，基礎・基本となる内容を繰り返し指導していくことができるように，学習の内容を系統立ててとらえ年間指導計画を見直していきたい。

注１）　高浦　浩　「観察表現における児童画のつまずきと指導〔Ⅱ〕―つまずきの発生メカニズムとつまずきを生かす指導の構想」（『大学教育美術学会誌』第20号，1988年，115～127頁）

【授業研究２】　　自分の表したい感じに適した方法を選んで表現できるようにする学習指導の在り方　－中学校第１学年「合唱曲を描こう」を通して－

(1)　授業研究のねらい

本題材は，Ａ表現 (1) 絵や彫刻に表現する活動の エ「自分の表したい感じを大切にして多様な表現方法を工夫し，絵やイラストレーション，彫刻などに美しく生き生きと表現すること」に基づいた題材である。自分の表したい感じを生かして表現するために，「自分の表したい感じに適した表現方法や材料を選べること」や「材料の特性や用具の生かし方を工夫して，思いを表現していく技能」を身につけることは重要であると考える。

本学級の生徒は，小学校での学習や１学期に実施したスケッチの授業により，「ものをよく見取り描く力」を比較的よく身に付けているといえる。２学期に実施した写生会では，モチーフの形をよく捉え，物と物の重なりや遠近感を的確に表現した作品や，重色によって透明水彩的に描いた作品，混色した自然な色で彩色した作品が見られた。そこから，水彩絵の具の扱いにもある程度慣れている様子がみられた。しかし，表現する方法に関する知識や経験がまだまだ不足しており，多様な表現方法を工夫できるとはいえない状態である。この経験の浅い生徒たちに，自分の表したい感じを表現できる多様な方法を体験させることで，生徒は表現意図にあった表し方が選択できるようになり，自分の表したい感じを生かした表現につながるのではないかと考えた。

そこで，本題材では，様々な表現方法のよさや特徴を理解し，表現意図にあった表現効果が得られる技法を選択して，表現できるようにすることをねらいとした。まず，新たな表現方法を経験する場を設定し，その材料の特性や用具の生かし方などの基本的な技能と知識を身に付けられるようにする。次に，合唱コンクールで発表する合唱曲をモチーフにし，歌詞や音楽から感じ取ったイメージを基に，表現意図と表現方法とを結び付けて構想を練ったり，既習の表現方法や材料と新しく身に付けた表現方法とを組み合わせたり選んだりしながら，創意工夫して表現できるようにする。その際に，繰り返し試して表現効果を確かめたり，表し方についての構想を練り直したりすることで，表現意図にあったよりよい表現ができるように学習指導の充実を図りたい。

(2) ねらいに迫るための具体の手立て

ア　表現の基礎的技能を身に付ける学習を位置付けることについて

表現の基礎的技能を身に付けるために，「モダンテクニック」や「水彩絵の具」の表現効果を試す場を設け，画材や表現技法による様々な表現効果の特徴を生徒自らが体験的に理解し身に付けられるようにする。まず，生徒がまだ経験したことのないモダンテクニックの技法（マーブリング，スパッタリングなど）を紹介し体験させる。次に，水彩絵の具を使った表現方法について確認する。その中で，水の加減や筆遣いなどの水彩絵の具の扱い方，グラデーションや色の組み合わせの効果など色彩にかかわる内容を学習し，その表現方法のよさや特徴，効果等をとらえさせたい。これらの活動を通して，生徒が新しい表現方法と出会うとともに，材料・用具にかかわる基礎的な表現技能を身に付け，表現方法への関心・意欲を高めて，表現の発想を広げられるようにしたい。

イ　学んだことを確認し合い生徒相互に広げることについて

それぞれの試しの体験や表現のための工夫から，画材や技法などの表現効果の特徴やそのよさについて生徒相互に学び合えるようにする。試しの体験をまとめるワークシートには表現方法とその効果，作者名を言葉の情報として記載し掲示することで，他の生徒がその表現方法を使いたい場合に，作者がどのような考えや気持ちでどのように表現を試したのか確かめられるようにする。また，自分と友達の作品制作に対する考え方を比較し，類似点や相違点を見付けてそれぞれのよさを理解し合えるようにする。まず，作品制作後に表現意図と表現上の工夫との関連に関して記述するワークシートを使って自らの表現活動を振り返りまとめる。次に，友達の表現のよさや工夫に気付き感じ取る相互鑑賞の時間を設定する。先に自らの制作を振り返っておくことで，友達の作品についても表現意図と表現との関連という視点から鑑賞できると考える。

ウ　表現方法を創意工夫する指導の手立てについて

表現活動の際には，習得したモダンテクニックや既習の水彩絵の具の技法などから，制作意図にあった表現方法を選択して表現していくこととし，本題材では，背景から描き始め描きながら構想を練り直す手法を提案する。また，一度作成を始めた作品であっても，より表したい思いに近い表現となるように，制作過程で変更を積極的に行ってよいことを助言する。さらに，別の材料や表現方法を試すなどして，選びなおして制作することが容易にできるように，技法ごとにコーナーを設けて材料や道具を十分に準備することで，生徒がよりイメージを広げられるよう配慮したい。

(3) 授業の実践

ア　題材名　「合唱曲を描こう」

イ　目標

○　表現方法に関心をもち，自分らしくよりよい表現を目指して表現方法を選択し，意欲的に制作活動に取り組もうとする。（美術への関心・意欲・態度）

○　曲から感じた印象をもとに主題にあった発想をし，表現方法を創意工夫することができる。（発想や構想の能力）

○　描画における形や色彩の表し方や，意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付け，表現することができる。（創造的な技能）

○　お互いの作品から様々な見方や感じ方で読み取り，多様な表現や美しさなどを感じ取ることができる。（鑑賞の能力）

ウ　評価規準及び学習の計画

(ｱ)　題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分らしくよりよい表現を目指して創意工夫をしようとしている。（観察・ワークシート）	曲からの直感的なイメージや発想を生かし，効果的な表現方法を創意工することができる。（構想スケッチ・作品）	描画における形や色彩の表し方などの基礎的技能を身に付け，意図に応じて材料や用具を選択し表現することができる。（観察・作品）	作者の心情や意図と表現の工夫とのつながりを感じ取り，多様な表現の良さや美しさを味わうことができる。（ワークシート）

(ｲ) 学習計画（８時間取り扱い）

次	時	学習内容	関	発	創	鑑
1	1.2	・モダンテクニックの様々な表現技法とその効果を確かめる。	○		○	
	3	・水彩絵の具の様々な表現技法とその効果を確かめる。			○	
2	4	・合唱曲からイメージする場面をスケッチする。		○		
3	5	・効果的に表わすための技法や画材を選び，下地づくりをする。（本時）			○	
	6	・画材や技法を選んで画面づくりをする。			○	
	7	・表現方法を創意工夫して作品に仕上げる。		○		
4	8	・友達の作品から学ぶ鑑賞会をする。	○			○

エ　本時の学習

(ｱ) 目標

画材や技法などの表現効果のよさを，表現意図に合わせて選択し，表現することができる。

(ｲ) 準備・資料

参考作品，画用紙，鉛筆，水彩絵の具など

(ｳ) 展開

学習活動・内容	指導及び支援・評価　　評は評価
1　参考作品（想像画）を鑑賞し，作者の表現意図を想像したり，作品から受けるイメージを発表したりする。	○　作者は，モチーフの組み合わせや配置で情景を表し，その情景のもつ雰囲気を強めたり際だたせるために色や模様などの背景を工夫して表現していることを確認する。
2　本時の課題と学習目標を提示する。 曲のイメージを色や模様で表現しよう。 （情景を盛り上げる背景）	○　表したいイメージと，水彩絵の具やモダンテクニックの様々な効果や味わい，表現できる雰囲気とを結び付けて作品に生かす事がポイントであることを強調する。
3　表現意図にあった方法で，作品の背景（下地）を作成する。 (1) 曲を聴き，歌詞を見なおして，表したい感じを確認する。	○　表したいことやイメージが変わってきている生徒には，アイデアスケッチ通りでなくてもよいことを伝え，より効果的な表現を追究することを奨励する。 ○　生徒の様子や希望により合唱曲を流し，イメージを膨らませるようにする。
(2) 表したい感じを生かせる方法を選んで表現する。 ・にじみやぼかしなどの表現効果を生かして。 ・色の感情や効果を生かして。 ・モダンテクニックの技法を使って。 ・技法を組み合わせて。	○　思い通りにいかないときには気軽にやり直しができるよう，画用紙や用具を多めに用意する。 ○　マーブリングは専用のコーナー設置し，作業がしやすいようにする。 ○　表現効果や技法を組み合わせて表現するなど，新たな表現に挑戦している生徒の作品を意図的に紹介し，各自への表現に生かせるようにする。

4　友達の作品をみて，さらに効果的な表現方法を工夫して表現してみる。	○　水彩絵の具やモダンテクニックの様々な効果や味わいを,作品サンプルコーナーで確認できるようにする。 評　表現意図にあった画材や技法などの表現効果を選択し，表現している。（創造的な技能）〈観察・作品〉 ＜努力を要する状況の生徒への手立て＞ ・　アイデアスケッチを見なおして，表したいことを再確認するよう助言する。 ・　作品サンプルコーナーや友達の作品とその表現意図との関係を参考にするよう助言する。
5　本時の学習を振り返り次時の学習内容を確認する。	○　制作の進度を確認し，次時は，表したい場面に登場するモチーフを描いていくことを伝える。

(4) 授業の分析と考察

ア　表現の基礎的技能を身に付ける学習を位置付けることについて

モダンテクニックの「マーブリング」は，生徒にとって不思議で新鮮な表現方法であり，教師のデモンストレーションを興味をもって見守るだけでなく，体験の場面では，次々に色合いを変えながら，何度も表現を試みる姿が見られた。また,「スパッタリング」では，画面をマスキングする方法を試みたり,色を変えたグラデーションを楽む生徒も見られた。中には，マーブリング用絵の具をスパッタリングして水面に散らし，水玉状の模様をつくり出す技法を開発した生徒もいた。

水彩絵の具の技法を試して表現する場面では，音楽を聴きそのイメージを短時間で即興的に色と筆あとで表現する活動を課題とした。絵を描いている時の「にじみ」や「ぼかし」は，普段は失敗と捉えることが多いが，意図をもってにじませたりぼかしたりした場合には表現方法の一つと捉えられることを知ると，最初は戸惑いながらも，水と色がつくりだす模様や形を思い思いの方法で表現していた。また，絵の具を溶いた色水を垂らしたり，指やスポンジで絵の具を扱ったりと，様々な表現方法を試みる姿が見られた。特に，音を即興的に表現する題材は生徒の関心を高めることができ，面白かったのでまたやりたいという感想が多く見られた。

表１　創意工夫に関する感想（抜粋）

質問１　様々な表現技法について感じたことや分かったことを書きましょう。　(32人)

・マーブリングは悩みや心の中を表現するのに向いている技法だった。 ・スパッタリングは周りの空気等を表すのに向いている技法だった。 ・色を消しゴムで消すと色が濃い部分と薄い部分が出来るので，暖かさなどをより表現できる技法だった。 ・同じ黄色やオレンジを薄めたり濃くしたりして描くと，暖かい感じになる。 等

※自由記述とした。

表１は学習のまとめとして記入した「制作のまとめワークシート」（以降まとめと表記）の「創意工夫に関する感想」を示したものである。表現技法をその特徴と関連させて述べているものや，自分で新たに技法を開拓した内容の記述が見られた。例えば「マーブリン

グは悩みや心の中を表現するのに向いている技法だった。」「色を消しゴムで消すと色が濃い部分と薄い部分が出来るので，暖かさなどをより表現できる技法だった。」などの感想が記述されていることから，生徒は，モダンテクニック等の表現の特徴から，制作意図に照らし合わせ表現方法を広げていったり，色の濃淡を組み合わせ表現したい感じを表すことができたと考える。画材や表現技法による様々な表現効果の特徴を生徒自らが体験することにより，基本的な表現方法を基に，自分なりの表現の仕方を身に付けることができたものと考えられる。

イ　学んだことを確認し合い生徒相互に広げることについて

試作品を「試作交流ワークシート」で教室掲示し，友達の表現を見ることができるようにしたことにより，生徒間の情報交換に役立つことができた。特に，作者が自分の作品から受けるイメージを紹介したコメントや，音楽から受けたイメージを即興的に表現した作品の表現意図を記入したことにより，本制作に入っても授業の合間にその掲示物を参考に，表現効果を確認し作品に生かしているている生徒の姿が見られた。

試作交流ワークシートの掲示

表２は「制作意図と工夫について」（まとめ）のアンケート結果をまとめたものである。制作意図と表現上の工夫とを正しく対応させて記述している生徒が23人であった。また，実際に工夫したことについても，記述内容から，自分の表現意図を生かす工夫がされていつことが分かる。このことから，生徒は表現意図をもって表現方法を選び，作品を制作することができたととらえることができる。

表２　制作意図と工夫について

質問２　どんな作品にしたいと考えましたか。そのためにどんな工夫をしましたか。　(32人)

制作意図と表現上の工夫	人数	生徒の記述内容から（抜粋）
表現意図とそのための工夫が対応して記述されたもの	23人	・暖かい感じを表したかったので，暖色を使って中心から明るい感じの暖かいから暗い感じの暖かいに塗っていきました。
表現意図と工夫した内容とがかみ合わない記述	２人	・友情を表したかったので，色を少しぼやかした。
表現意図に対する工夫の内容が記述できなかったもの	６人	・悲しい感じがしたので，悲しさを表現した。
記述できなかったもの	１人	無答

※「　　」したかったので「　　」を「　　」したという記述方法で記述した。

ウ　表現方法を創意工夫する指導の手立てについて

この授業では，背景から描き始め，主となるモチーフを後から描く制作手順を提案した。これにより，描きたい場面の雰囲気を色と模様で表現することとなり，試しの学習内容が生かされる形となった。生徒は，まず描きたい場面の雰囲気を表す色と表現方法で画面を構成し，その後直接モチーフを描き入れたり，別な画用紙に描いたモチーフを切り取ってコラージュしたりして表現した。マーブリングの技法を選択して使った生徒がいなかったのは意外であったが，スパッタリングの技法を使ったり，にじみやぼかし，グラデーションなど水彩

絵の具の特性を生かした表現を試みたり，また，それらを組み合わせたりと様々な表現方法で制作していた。ある生徒は，モチーフを先に描きたいという思いをもったが，背景を描くうちに，モチーフを描き入れず色と模様だけで表現するほうがかえって曲の雰囲気が表せると考え，表し方を変えた。モチーフの描き方も写実的なものもあれば，漫画的な表現様式のものもあり，多様な作品が完成した。

表３　創意工夫に関する問い

質問３　最初の考えから変更したことはありますか。それはなぜですか。　(32人)

回答　　**はい 変更した）　10人**　　**いいえ 変更しない）　22人**
【変更した理由】 ・バックがにじみだけだったので，その上にスパッタリングで色を重ねるとすごく柔らかく表すことが出来た。 ・テーマが「別れ」だったので，別れているところより「約束」している方が良いと思ったので，暖色を輪にして指切 りしているところに変えてみたら暖かい感じの絵になった。

※「　」なので「　」を「　」にかえてみたら「　」になった。という記述方法で記述した。

表３は「創意工夫に関する問い」（まとめ）を示したものである。32人中10人が「最初の構想を制作途中で変更した」と回答した。その理由としては，「モチーフが思うように描けなかった」「モチーフの配置や大きさのバランスが悪いと感じた」「色彩の雰囲気を変えたかった」「テーマを解釈し直して別のイメージを持った」「新たな技法が見つかったので使ってみた」というもので，新たな画用紙に最初から描き直した生徒がそのうち３人であった。このような結果から生徒が制作が進むにつれて，イメージを広げたり，表現効果などの気付きから変更したりするなど，試行錯誤しながら作品制作に取り組んだことが読みとれる。

(5)　授業研究の成果と課題

ア　研究の成果

・モダンテクニックのような，これまでに体験したことのない新たな表現方法と出会い，体験する機会を設定することによって，その基本的な表現方法を基に，自分の表現意図に合った表現の仕方を身に付けることができた。

・学習内容に則したワークシートを工夫し，使って学習することは，より多くの表現方法との出会いにつながり，学習内容の理解を深め，意義のあるものにすることができた。

・描画方法を工夫し，背景から描くという描画方法を提案したことにより，生徒は構成を様々に試行錯誤しながら絵づくりすることができた。

イ　今後の課題

・本題材で設定した合唱曲を聴いてそのイメージを描く題材は，曲によりイメージの広げやすさに大きな差がある。どの様な曲が題材として向いているのかや，新たな表現方法としてどのような内容がふさわしいかについての検討が必要であると感じた。

【授業研究３】　見方や感じ方を深める鑑賞指導の在り方
－小学校第５学年「水墨画に親しもう」における指導の工夫を通して－

(1) 研究のねらい

学習指導要領において，高学年のＢ鑑賞の目標として「自分たちの作品の表し方の変化などに関心をもって見るとともに，表現の意図や特徴をとらえ，見方や感じ方を深めるようにすること。」が挙げられている。見方や感じ方を深めるためには，作品の中の様々な表し方を見てその特徴について話し合い，表現する人の思いを感じることが必要である。それにより美術作品などのよさや美しさなどに親しむことができるようになり，それらを大切にする態度を育むことができるものと考える。このような鑑賞活動は，美術館を活用したり表現と一体的に行った指導を取り入れたりすることにより，効果的に行えるものと考える。

本学級の児童の多くが作品を鑑賞することが好きである。作品が完成すると，いつも互いに興味深く鑑賞する様子がみられる。しかしややもすると材料の目新しさや表現の技能に目を奪われがちで，作者の思いや意図を考えたり，よさや面白さを十分に味わうまでには至らない児童が少なくないのが現状である。美術作品についても横山大観や小川芋銭など地域の画家については，４年の社会科で学習しているため名前こそ知っているが，その作品を鑑賞したことのある児童は１人，美術館に行ったことのある児童も３人である。このような実態を考慮したとき，美術館の活用や対話により鑑賞活動を充実させることが必要である。

本題材では，導入時に美術作品を鑑賞する機会をもつことで，作品には作者の思いや意図があり，それを伝えるために表現の工夫があることに気付かせたいと考えた。美術館を活用し水墨画を中心に鑑賞することで，風土の特性や作者の個性によって作品が表され，固有のよさや美しさが醸し出されていることを実感できるようにしたい。そこで気付いた表現のよさや工夫を取り入れて水墨画の表現を楽しむことで，自分らしい感覚や想像をはたらかせることができるものと考える。鑑賞で学んだ水墨画の表現方法を用いて製作につなげることにより，製作者の思いにも気付くことができる。更に，製作した作品について友達同士で問いかけながら鑑賞し合うことで，互いの見方を知るとともに，様々な表現のよさや工夫にも気付くことができる。

このように鑑賞をもとに製作した作品について，問いかけながら話し合う鑑賞を行うことで，児童の見方や感じ方を深めることができるのではないかと考えた。

(2) ねらいに迫るための具体の手だて

ア　美術館を活用した日本画の鑑賞

学習の導入では横山大観や小川芋銭の作品を鑑賞し，そこに表されている情景のよさや美しさを鑑賞できるようにした。学区の近くにある牛久沼は児童にとっても身近な場所である。牛久沼の風景やそこに住む生き物や河童を題材にした小川芋銭の作品は，児童にとっても親しみがもてるものと考えた。また墨で描かれた「生々流転」に代表される横山大観の作品も，児童に自然の美しさや雄大さを感じさせてくれるものと考える。

こうした水墨画の鑑賞を行うことで，墨の濃淡がもたらす空間の美しさに着目させるとともに，筆のスピード感やリズム感が表す表現のよさや美しさに気付かせたい。また絵巻や掛け軸・屏風の表現に着目し，それらの特徴や鑑賞の仕方に親しませたいと考えた。

イ　水墨画のよさと表現の工夫

小川芋銭の作品も横山大観の「生々流転」も，自然の風景を表したものが多いことから，児童も自分の身近にある自然をとらえ直し，製作につなげていくことができるものと考える。身近にある林や森に目を向ければ，そこに住む生き物たちの姿に気付くことができる。自然の中の音や匂い・色などを想像し，墨を使ってどのように表したいかを考えたり判断したりしながら豊かに表現させたい。

具体的には墨の濃淡に着目し，ぼかしやたらしこみ等を取り入れることで，様々な表現が可能であることに気付かせたい。筆を縦に使う直筆や，水と墨を混ぜて側面を使って描く側筆を取り入れ，表したいものによって筆を使い分けることで，表現の面白さを味わうことができる。筆のおろし具合でも線の強弱が表せることや，線の変化だけで形や質感をとらえる鉄線画のような表現もあることに気付かせたい。墨の濃淡や色味を生かして自分がとらえた自然のイメージを画面に表したり，点描や筆のかすれなどを用いて，部分を表現したりしていくことで，墨による豊かな表現の面白さを味わうことができる。筆使いの強弱やスピードなどにも着目することで，墨を使ってできる多様な表現に気付かせたい。

ここでは，絵巻や掛け軸・屏風の特徴を知ることで，児童は自分がどのような方法で表したいかを考えることができるようにしたい。絵巻物が右から左に物語が展開していくことや，掛け軸に描かれた植物や生き物が，画面のどこに向かおうとしているのかを考えることで，紙の長さや大きさを工夫することができる。それにより画面の空間を意識し，鑑賞者の視点を考慮しながら製作ができるようになる。自分が表そうとしているものが，どのような構図が適しているかを考えることでイメージに合った仕上げ方を選択し，自分の思いを豊かに表現することができる。

ウ　「問いかけ」による作品鑑賞

児童は，自分に合った表現方法で作品を仕上げていくことから，鑑賞の際には，絵巻や掛け軸・屏風等作品に応じて見方が異なることを実感し，それぞれのよさを感じることができる。一画面ずつ広げながら鑑賞する絵巻や，縦に垂らし下から見上げるように鑑賞する掛け軸。屏風は対になった作品の関わりを感じることで，そのよさを味わうことができる。鑑賞会ではそうした表現の特徴を理解できるように，「鑑賞の手引き」（自作資料）を用意し，飾り方や鑑賞の方法について，必要に応じて確かめながら活動することができるようにしていきたい。

作品鑑賞は，問いかけによる対話型鑑賞の形態を取り入れ，様々な見方や感じ方を引き出すことができるようにする。小グループを作り，その中で製作者と鑑賞者に分かれ，問いかけをもとに互いの作品を鑑賞し合う。製作者は自分の作品を提示し「これは何でしょう」「何をしているのでしょう」「何故，そう思いますか」問いかけていく。鑑賞者は，問いかけの言葉を基に，表されているものの動きや様子などを想像しながら作品を鑑賞することで，表現している人の思いや意図を感じ取るものと考える。「何をしているのでしょう」という問いかけの言葉では，表されているものの様子や，それを取り巻く空間や時間・色や音などを自分なりに想像しながら鑑賞することができる。「何故，そう思いますか」という理由についての問いかけでは，構図や墨の濃淡，筆使いなどの表現の工夫から製作者の思いを感じ取ることができる。このように問いを重ねることで互いに共感しながら作品を鑑賞し合い，見方や感じ方を深め感性を高めることができると考える。

(3) 授業実践

ア　題材　　水墨画に親しもう　－掛け軸・絵巻・屏風をつくって鑑賞しよう－

イ　目標

○　水墨画に関心をもち表現のよさや面白さを感じようとする。
（造形への関心・意欲・態度）

○　水墨画の特徴を生かして，自分なりの想像力を働かせて表すことができる。
（発想や構想の能力）

○　紙や筆・墨などの使い方を工夫して表すことができる。　（創造的な技能）

○　問いかけをもとに作品について話し合い，特徴をとらえたりよさや美しさを見つけたりすることができる。　（鑑賞の能力）

児童の実態（男15人，女15人　計30人）　平成20年６月２日実施

1　作品を鑑賞することが好きですか。 とても好き24人　やや好き６人　あまり好きではない０人　分からない０人
2　掛け軸・屏風などを鑑賞したことがありますか。 美術館でみた３人　それ以外の場所でみた12人　みたことがない15人
3　作品を鑑賞するときに，製作者の思いや意図を考えながらみていますか。 よくみている０人　みている23人　あまりみていない５人　分からない２人
4　作品を鑑賞するときに，構図や色・表現方法など気をつけてみていますか。 よくみている15人　みている12人　あまりみていない２人　分からない１人

ウ　評価規準及び学習の計画

(ｱ) 題材の評価規準

造形への関心･意欲･態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
作品の様々な表し方に関心をもって鑑賞したり，特徴をとらえて表現したりしようとする。 （観察・ワークシート）	自分なりの発想で表現方法を考え，工夫して表すことができる。 （観察・作品）	紙の大きさや墨の濃淡，筆使いを工夫して，効果的に表すことができる。 （観察・作品）	製作者の思いや意図を感じ取りながら，作品のよさや美しさを味わうことができる。 （観察・ワークシート）

（ｲ）　学習計画（８時間取り扱い）

次	時	学習内容	関	発	創	鑑
1	1	・茨城の画家横山大観や小川芋銭の作品を鑑賞し，水墨画のよさや美しさに親しむ。	○			○
	1	・絵巻や掛け軸・屏風の表現の特徴や鑑賞の仕方を知る。	○			
2	1	・水墨画で表したいものや製作方法を考えたりする。		○		
	3	・水墨画の表現のよさや特徴を生かして，作品を表す。		○	○	
	1	・自分なりのイメージをもとに，絵巻や掛け軸・屏風を仕上げる。			○	
3	1	・互いの作品を鑑賞し合い，表現のよさや美しさについて話し合う。　（本時は第８時）	○			○

エ　本時の学習

(ｱ) 目標

対話型鑑賞を通して，水墨画の特徴や表現の工夫を感じ取り，作品のよさや美しさを鑑賞することができる。

(ｲ) 準備・資料

児童作品（掛け軸・絵巻・屏風）・ワークシート・鑑賞の「手引き」・展示板・座卓

(ｳ) 展開

学習活動・内容	指導及び支援・評価　評は評価
1　本時の学習課題をつかむ。 ○　絵巻や掛け軸・屏風の特徴について話し合う。 ○　学習課題を確認する。	○　絵巻と掛け軸・屏風の製作方法を振り返り，飾る場所や鑑賞の仕方の違いについて確認し，鑑賞活動への意欲を喚起する。
絵巻や掛け軸・屏風に表された水墨画の表現のよさや美しさを鑑賞しよう。	
2　互いの作品を鑑賞し合おう。 ○　対話型鑑賞の方法を確認する。 (1) グループを作る。 (2) グループの中で，役割を持つ。 ・問いかけをする児童 ・問いかけをもとに作品を鑑賞する児童 (3)　役割を変えながら，互いの作品を鑑賞する。 ○　問いかけをもとに鑑賞する。 【問いかけの例】 「これは，何でしょう。」 「何をしているのでしょう。」 「なぜ，そう思ったのですか。」 「これから,どうなるのでしょう。」 「どんなところから，そう思いましたか。」 【鑑賞のポイント】 ・　生き物の動きや向き ・　画面の中の生き物同士の関わり ・　時間の流れ ・　作品の中の物語性 ・　墨の濃淡 ・　水墨画の表現技法 （鉄線・没骨法・にじみ・ぼかし等） ・　紙の大きさと構図の関連 ○「鑑賞カード」に感想を書き，製作者に渡す。	○　グループ内で，作品を提示して問いかけを行う児童と鑑賞する児童を決め，対話型鑑賞を行う。 ○　鑑賞のはじめに，互いの作品の掛け方や広げ方等について説明し，掛け軸・絵巻・屏風の鑑賞の仕方の違いが分かるようにする。 ○　掛け軸は，表装の特徴や工夫に着目し，掛け方も分かるようにする。絵巻は一画面ずつ鑑賞し，物語の展開について話し合えるようにする。また屏風は二つの面の関わりに着目した鑑賞ができるよう助言する。 ○　対話型鑑賞の手引きを使い，問いを繰り返すことで，作品を注視し，表されているもののよさや工夫についてじっくりと鑑賞できるようにする。 ○　「なぜ，そう思ったのですか。」という問いかけを基に，作品の仕上げ方に応じた構図や，水墨画の特徴的な表現の技法に着目することで，作品の見方や感じ方を深めることができるようにする。 ○　自分たちがこれまで表してきたぼかしやにじみなどの様々な技法が，水墨画の作品でも生かされていることに気付くようにする。 ○　対話型鑑賞を通して気付いた作品のよさや工夫・製作者の思いを「鑑賞カード」にまとめるよう助言する。 評　対話型鑑賞を通して，絵巻や掛け軸・屏風に表された水墨画のよさや美しさに気付き，表現の工夫や作者の思いを感じることができる。 （観察・鑑賞カード） 〈努力を要する状況の児童への手立て〉 ・　「鑑賞カード」に友達の作品の感想が書けない児童には，対話型鑑賞の際に自分が話したことをふり返ることで，自分の見方や感じ方をまとめられるようにする。 ・　同じグループの友達の見方や感じ方を基に，自分にはどう感じられたかを考えることで，自分なりの見方や感じ方がもてるように助言する。
3　友達の鑑賞をもとに，本時の活動についてふり返る。 ○　自己評価を記入する。 ○　水墨画のよさや美しさについてまとめる。	○　対話や，友達から渡された「鑑賞カード」をもとに，自分の作品のよさや工夫点についてワークシートにまとめる。 ○　水墨画に表現された作者の思いについて分かったことや気付いたことをまとめる。

(4) 授業の分析と考察

ア　美術館を活用した日本画の鑑賞

横山大観は社会科で学習していたため，作品を鑑賞するとき，その人物像を重ねて鑑賞する様子がみられた。五浦美術館から借用した「生々流転」の絵巻を広げると，その長さに歓声が上がった。児童は一場面一場面をじっくりと鑑賞していく様子がみられた。深い朝霧の描写では「墨をぼかしてぼんやりとした雰囲気を出している。」とつぶやいた児童もいれば，険しい崖の場面では，「大きな筆でこすったみたい。」と，表し方を想像し，そこから作品の力強さを感じている児童もみられた。右から左へと画面が途切れることなく移り変わっていくことや，どこまでも続く絵の長さに，絵巻の表現の面白さを感じた児童も多かった。美術作品を鑑賞することで，表現のよさや美しさを十分に味わうことができるとともに，学芸員をゲストティーチャーに招いて，横山大観や小川芋銭の画家としての人物像に触れることで，作品に込められた作者の思いを感じながら鑑賞することができた。

横山大観の「生々流転」を鑑賞

イ　水墨画のよさと表現の工夫

一滴の墨汁に加える水の量で様々な墨の濃さを表せることを知り，自分の作品にあった色を作り出すことができた。鉄線画のように細筆の先を使って表したり，側筆で面を表したりするなど，自分が表したいイメージに合わせて表現を工夫し，楽しみながら水墨画に親しむことができた。例えば大観の崖の表現が印象に残った児童は，太筆の側筆を使ってかすれを表現し川の水の流れを表すことができた。また，まわりの樹木の太くどっしりとした感じを出すために，にじみの表現を用いている児童もみられた。さらに鳥がくわえた赤い実や，雀が止まった枝先の柿の実の鮮やかな色彩を強調するために，部分的に彩色しコントラストをつくることで，水墨画のもつ濃淡を際立たせている児童もみられた。

自分が表したいものに応じて，紙の形や大きさを選び，絵巻・掛け軸・屏風等自分に合った表現を選ぶことで，それぞれの特徴を詳しく知ることができた。表装や飾り方・巻き方を体験することで，自分の作品に愛着をもちよさや面白さを実感することができた。

ウ　「問いかけ」による作品鑑賞

鑑賞会ではグループを作り，製作した児童が自分の作品について「これは何でしょう」「なぜそう思いましたか」と問いかけた。鑑賞者は，問いかけをもとに作品を注視し，色や形の特徴をとらえながら自分なりに読み取っていく。それにより，製作者には自分の工夫や思いに気付いて欲しいという期待が生まれ，鑑賞者には，製作者の意図や思いに寄り添おうとする感情が生じた。墨の濃淡や，筆使いから優しく穏やかな様子を描こうとしていることや，鳥が羽ばたく一瞬の力強さが濃くはっきりとした線で描かれていることなどを感じ取り,作品の中の時間や空間を想像しながら製作者の思いをとらえようとしていた。画面の外側を想像する言葉や音や色を問う言葉を用いることで，表されているものの様子や構図・墨の濃淡や筆使いなどにも着目することができた。他の児童の見方や感じ方を聞

きながら共に作品を鑑賞することで，一人一人の見方や感じ方を深めることができた。

こうした鑑賞活動により，事前調査では「作品を鑑賞するときに，製作者の思いや意図を考えながらみていますか」という問いに対して，「よくみている」と答えた児童はいなかったが，学習後には，８人が「よくみている」残りの22人も「みている」と答えている。その理由としては，問いかけに答えようとして，作品に表されたものの様子や気持ち・場面の移り変わりを考えたことで，友達が何を表そうとしていたかに気付いたことが挙げられている。また「なぜそう思いましたか」とその理由を問いかけたことにより，濃淡や筆触などの様々な表現と，作者の思いとを関連づけることができたためといえる。

「問いかけ」をもとに鑑賞する児童

美術館を活用し，「生々流転」などの美術作品を鑑賞したり，学芸員をむかえて鑑賞会を行ったことで，作品への理解が深まり見方や感じ方が深まったことを実感している児童も多い。学習後，家庭にある掛け軸などを鑑賞したという児童もいた。作品を家に飾って鑑賞しているという児童も半数を超えている。美術作品への関心が高まり，県内の美術館に作品を見に行きたいという児童もみられた。

このように，導入で美術作品を鑑賞し，鑑賞と表現を一体的に取り上げ，問いかけをもとにした対話型鑑賞を取り入れた鑑賞の学習は，児童が製作者の思いを考えながら表現のよさや特徴をとらえ，見方や感じ方を深めるために有効だといえる。

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

・導入で地域の美術作品に親しみ鑑賞の工夫を行ったことで，児童は製作者の思いを知り多様な表現のよさや美しさに気付くことができた。また学芸員を招いて絵巻などの特徴や鑑賞の仕方について話を聞いたことで，作品の見方を知ることができた。

・導入の鑑賞との関連を図り墨の濃淡や筆触を生かしながら水墨画を表現することで，自分が表したいものをイメージしながら製作することができた。自分なりの表現を工夫し構図を考えることで，絵巻や掛け軸・屏風などの表現のよさを感じることができた。

・問いかけをもとにした鑑賞活動を行うことで，児童一人一人が製作者の思いを感じ取りながら作品を鑑賞し，構図や表現の特徴についてよさや工夫を味わうことができた。それにより，児童の見方や感じ方を深めることができた。

イ　今後の課題

・作品について問いかけながら話し合う対話型鑑賞は，新学習指導要領のＢ鑑賞「感じたことや思ったことを話したり，友人と話し合ったりするなどして，表し方の変化，表現の意図や特徴などをとらえること。」につながるものである。そこで今後は，発達段階や題材に応じた問いかけの言葉を工夫していくことで，多様な作品の鑑賞に取り入れていきたいと考える。また鑑賞だけではなく，製作過程や発想・構想の際にも話し合い活動を取り入れることで，材料や表現手段などについても，友達の感じ方に共感するとともに自分の感じ方を確かなものにしていけるよう指導の工夫を図りたい。

【授業研究４】　中学校第２学年「息づく空間」における表現や鑑賞の情報を得るプロセスを通して生徒の表現力の育成を図る学習指導の在り方

(1) 授業研究のねらい

本題材は，Ａ表現(1)のねらいに基づき，授業の指導計画において基礎的・基本的な知識や技能を押さえ学習内容を精選し，計画的，継続的に指導を行い，表現の基礎的能力を養っていくことを目的にしている。具体的には，表現活動と鑑賞活動を関連付けて，ワンポイント指導として基礎的な知識や技能を学習する場面を位置付ける。表現のプロセスの中で，自分の表現のために必要な情報を選択したり，思考したりして，自分の考えで取捨選択しながら，よりよく表現できる力を身に付けていけるようにする。例えば，一点透視からの５分間トレーニングや色彩遠近法トレーニング，着彩トレーニングを通して基礎的・基本的な知識や技能を習得する。さらに，授業内のワンポイント鑑賞により名画からの学びを，習得した知識・技能と合わせて生かせる表現活動が行われるようにしたいと考える。

本学級の生徒は，アンケートによると，生徒が身に付けたい力の１番目は「ものを描く力」と技術的なことへの高まりを求めるものである。また，美術授業の楽しさは，「新しいことを知ること」であると考える生徒が「制作をすること」と同様に多かった。技能的な学習への欲求が高く，本物感が味わえる授業，専門的な面も学べる授業を期待していることが伺われた。実際には，中学校入学当初より基礎的な描写についてクロッキーや描写についてのミニトレーニングを継続してきている。ある程度，ものを見て描く力を生徒が身に付けつつある状態である。しかし，鑑賞となると得ている知識もほとんど無く，名画や画家についても，ほとんど知らない現状にある。

そこで，今回の題材には，指導計画の中に意図的に基礎的・基本的な知識や技能を養うために短時間のトレーニングを段階的に設け，表現意図に合わせて表現する力を身に付けながら進めることを考えた。同時に，鑑賞は「表現に結びつく鑑賞」になるように題材に合う作家の作品を意図的に取り上げ，生徒の表現欲求に合わせた鑑賞とする。また，一点透視法や色彩遠近法に当てはまる画家（フェルメール，ダ・ヴィンチ，ミレー，シスレー，スーラ，ブリューゲル）を扱っていくが，特に，フェルメールについては，特徴的な室内空間を用いた構図やモチーフに主眼をおいて生徒たちが絵画から種々の情報を読み取れるように進めたい。

(2) ねらいに迫るための具体の手立て

ア　基礎的・基本的な知識・技能の定着

今回の風景画制作に必要とされる基礎的な知識や技能等を短時間（約５分程度）のトレーニングにより計画的に積み重ねて実施していく。実際は一点透視を中心とする「透視法」を５分間教室の四方の角でクロッキーしたり，暖色を近景に置く「色彩遠近法」・濃い色を近景に置く「空気遠近法」をＢ５判程度の紙で簡単な説明のもとに，着彩のみのトレーニングをしたりする。生徒は自分の表したい感じにしたいと思っている一方で，適切な表現の方法を身に付けていないという現状がある。表現意図に合わせた表現ができるだけの力を養っていく必要がある。表現の素地を身に付けつつ，その技能を生徒の表現意図に合わせて取捨選択して表現に活用できるようにすることが，生徒の豊か

な学びにつながると考えている。

イ　ワンポイント鑑賞からの情報の取り出し

時間が許せば，いくらでも見せたい名画の作品があるが，そのような余裕の時数はなかなか無いのが現実である。しかしながら，生徒に伝えたい名画や作品はたくさんある。上手に計画を立てて，表現題材の参考になる作品を鑑賞する機会を意図的に作り表現に生かせる力を養いたい。そこで，題材のテーマ，表し方などの特性が類似している作品を，１時間の授業の中に鑑賞として取り上げていく方法を採った。ワンポイント鑑賞なので，５分～ 10 分程度の短時間で鑑賞することを基本とし，ワークシートもＢ５判の半分程度にとどめ，簡潔に記述できるようにする。鑑賞の方法も同作家の３つの作品を数分単位で比較検討させたり，２人の作家の描き方の違いを探させたりと生徒に鑑賞のポイントを導きやすいように設定した。特に，今回の題材では，校舎内の光を感じながら制作することをねらいとする。本時では，風景画の空間意識を高めるために，空間の表現の仕方に特徴のあるフェルメールの３つの作品「絵画芸術」「恋文」「手紙を書く女と召使」を取り上げ，比較検討して発表し合い，自分の作品に生かかせるようにしたい。

ウ　表現方法や材料などの選択，組み合わせ

表現には個々の差があり，小学校高学年より既に顕著である。それが，将来の美術嫌い・苦手を生み出している一因となっていることは，図画工作・美術科の意識調査でも明らかである。兼務している小学校６学年の図画工作においても同じような傾向が見られる。そこで，身に付けた表現力を基に，より自分に合う表現が追求できるようにすることで達成感を感じ取れるようにする。具体的には，ディジタル機器（コンピュータやＤＶＤ）を利用し，多様な表現方法や材料などを選択したり，組み合わせたりしながら作品制作できるようにすると共に，美術には様々な表現があることに気付けるようにしたいと考えている。今題材では，描いた空間に，同質の空間や異質の空間の写真を組み合わせてコラージュし，絵画表現が苦手な生徒にも様々な観点から作品制作ができるように配慮し，学習意欲を高めウィットに富んだ作品を制作できるようにしたい。

(3) 授業の実践

ア　題材　　息づく空間　―鑑賞から表現へ，表現から鑑賞へ―

イ　目標

○　風景画に関心をもち，自分の表現課題を見いだし，意欲的に制作しようとする。
（美術への関心・意欲・態度）

○　空間や光による風景画の特徴について理解し，自分の課題からくるイメージを自由に広げ，構想を練ることができる。（発想や構想の能力）

○　描画材の特性を生かし，課題を適切で効果的に表現し，自分なりの意図に合わせた表現方法を用いて制作することができる。（創造的な技能）

○　友だちや名画の作品を鑑賞し，風景画のよさや美しさ，表現の工夫などを感じ取ることができる。（鑑賞の能力）

ウ　評価規準及び学習の計画

（ア）題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の表現課題を見いだす努力をし，自ら意欲的に制作しようとする。（観察・ワークシート）	空間や光による風景画の特徴について理解し，自分の発想やイメージを追求して，構想を練ることができる。（観察･構想スケッチ・作品）	描画材の特性を生かし，課題を適切で効果的に表現し，自分なりの意図に合わせた表現方法を用いて制作できる。（観察・作品）	友だちの作品や名画から，風景画の多様なよさや美しさ，表現の工夫などを味わうことができる。（ワークシート）

（イ）題材の指導計画（８時間取り扱い）

次	時	学習内容	関	発	創	鑑
1	1	風景画の鑑賞（名画・参考作品）を通して，制作の見通しをもつことができる。	○			○
2	風景画の特徴をワンポイント鑑賞から学んで，自分の選んだ空間を表現する					
	2・3・4	描きたい場所を選び，遠近法に注意してスケッチ･下絵を描き，制作の見通しをもつことができる。（４Ｂ鉛筆）	○	○		
	5・6	色彩遠近法などの技法を適切に使い，多様化した方法で描くことができる。（着彩の工夫）			○	
	7	全体のイメージをもって仕上げることができる。（ディジタル写真やハッチングの工夫）		○	○	
3	8	お互いの作品のよさを鑑賞する。	○			○

エ　本時の学習

（ア）目標

名画の空間表現を学び，自分にとって必要な表現の工夫を生かして制作ができる。

（イ）準備・資料

生徒：筆記用具，作品，絵の具セット，ディジタルカメラによる写真

教師：参考作品，生徒作品，ワークシート，自己評価カード，ＰＣ，プロジェクター

（ウ）展開

学習活動・内容	形態	指導及び支援・評価　評は評価
1　本時の学習内容を確かめる。 (1) 前時の学習内容を振り返り自らの本時の課題を確認する。 (2) 今日の学習の流れを確認する。 2　名画のワンポイント鑑賞をする。	一斉 個人	・全体でお互いの表現したい点を確かめ，グループで相談し合ったり，前時までの活動を振り返ったりしながら意欲的に制作に取り掛かれるようにする。 ・制作手順や表現方法を自分の学習活動を確認し，変更があれば，カードに赤で記入するように助言する。
名画の特徴をとらえて，自分の制作に生かそう。		
(1)　名画に共通した特徴・そのよ	一斉	・豊かな空間表現をもつフェルメールの作

さを探す。 【フェルメールの作品】 ・「絵画芸術」(1666～67年) ・「アトリエの画家」が主題。 ・「恋文」(1669～71年) ・「手紙を書く女と召使」 (1670～72年)		品映像をプロジェクターで拡大することにより，作品のよさが学べるようにする。 ・類似の作品を複数用意することで，共通したイメージをもちやすいようにする。 ・作品全体の空間の演出や光の方向も意識させながら鑑賞するように助言する。 ・ワークシートでは，本時の中で容易に取り扱いできるようにする。 評【関】名画の空間表現のおもしろさを意欲的に探そうとしている。（観察，ワークート）
(2)　ワークシートにまとめる。 ・３つの絵の共通点・相違点 ・鑑賞する視点 ・感想（何をどう生かせるか。）	個人	＜努力を要する状況の生徒への手立て＞ ・特に空間を考えにくい生徒には，教師が視点を示し，理解しやすいようにする。 ・自分の表現の中の視点や空間に気付くかように，机間指導の中で助言する。
3　自分の風景画の制作の続きをする。 ・遠近法による下絵の加筆 ・着彩 （空気遠近法や色彩遠近法） ・写真によるコラージュ	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・ディジタルカメラによるコラージュを使う生徒には，特に空間がぼけやすいので表したい思いを忘れないように図示して助言する。 ・空間密度を加える必要のある場合には，着彩後の鉛筆加筆や重ね塗りなどで手立てを紹介していく。また，個々の作品に合わせて指導・助言していくことで表現に深まりをもたせられるようにする。 ・自己評価し，学習の成果を個別に確かめながら次時の学習への課題へとつなげられるようにする。
4 自己評価カードに記入し，本時を振り返る。	個人	・自己評価カードは，文でも書くことにより学習状況に対応できるようにする。 評【造】表したいイメージに合わせて，描画の工夫ができる。（観察,作品,カード） ＜努力を要する状況の生徒への手立て＞ ・ワンポイント鑑賞を読み取ったことを思い出させながら個別に対応する。
5 次時の準備物や学習内容を確かめる。	一斉	・次時は，光の芸術家「レンブラント」の作品をワンポイント鑑賞に取り上げることを伝える。

（４）授業の分析と考察

ア　基礎的・基本的な知識・技能の定着について

事前調査では，今まで身に付けてきたと思う力で一番低かったのは「名画を鑑賞する力」で，29人中３人が自分にとって不足していると感じていた。美術の楽しさは「制作が楽しい」13人「新しいことを知るから」８人が多かったことを併せて考えると，制作と鑑賞をバランスよく組み合わせてワンポイント鑑賞し，習得した知識や技能を活用して制作する題材の必要性を確認した。

そこで，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る観点から，短時間で行える基礎トレーニングを取り入れた。特に，一点透視を教室の角をモチーフに実施したことは有効であった。学級の約３分の２の生徒が一点透視の構図について，ミニ制作を通して理解できた。空気遠近法や色彩遠近法での一点透視などのミニ制作をしながら各々部分的な着彩のみで「ぼかし」や「筆遣い」など短時間で実施したことで，その技能を生徒の表現意図に合わせて取捨選択して表現に活用していた生徒が多く見られた。このような作品制作が生徒の学びにつながると考えている。

工夫しながら着彩に取り組む生徒

イ　ワンポイント鑑賞からの情報の取り出について

ワンポイント鑑賞では題材のテーマ，表し方などの特性に類似している作品を授業の一コマに鑑賞として取り上げていく方法を実践した。プロジェクターで３作品を映し，鑑賞のポイントをつかみやすいようにしながら，比較鑑賞を実施した。発表し合いでは，生徒から多くの発表があり，絵画に対する気付きがたくさん出された。特に，フェルメールの「光」の方向性に特徴があり，空間を創っていることを多くの生徒がとらえることができた。資料１の，ワンポイント鑑賞のワークシートの「色の使い方や，窓からの光を活かしたい。」という記述からも，自分の作品の光を追究しようとしていることがわかる。

資料１　ワンポイント鑑賞ワークシート

鑑賞トレーニング　Z 年氏名

<息づく空間>名画の特徴をとらえて，自分の制作に活かそう！

（共通点）	（相違点）
・窓から光がさしこんでいる	・明るさ
・暖色の色が多い	・どこから
場所	
主人	
女の人	

（感じたこと）・○○を自分の制作に活かしたい。
色の使い方（奥をうすく，近をこく）や，窓からの光のさしかたを活かしたい。

本校の校舎の構造は吹き抜けの昇降口を中心に光が意識される造りであるので，光を感じて場所選びをした生徒の風景画が多く見られ，光を感じを工夫しながら制作することをができていた。

さらに，光の方向性を認識して，鉛筆によるクロス・ハッチングの方向を生かした作品が制作過程に出てきた。また，制作カードに風景画の空間意識を高めるために，空間の表現の仕方の特徴は，光を意識して鉛筆表現や色彩表現に手を加えたこと等を記入した生徒が見られた。

ウ　表現方法や材料などの選択，組み合わせについて

身に付けた表現力を基に，より自分に合う表現が追求できるようにすることで達成感を感じさせるために，ディジタル機器（コンピュータやＤＶＤ）を利用し，多様な表現方法や材料などを選択したり，組み合わせたりしながら作品制作できるようにした。

生徒作品

生徒の制作カードの記述からは，この学習で理解したと思うこととして，「光の方向に注意して描いた」29人中16人，「近い物と遠い物で色の違いを出した」15人，「クロスハッチングで影を工夫した」11人，「質感の工夫」「主題を考えて描けた」「近いものを濃く描けた」各々４人「奥行き・立体感工夫した」「バランスを工夫した」各々３人（複数回答）という結果が見られた。ワンポイント鑑賞の主題の一つであった「光」は生徒にとって印象深く，表現に生かせたと感じる学びの実感が読み取れる。また，色彩遠近法より空気遠近法の方が生徒にとっては身近であったようで，実際の作品も派手な暖色傾向の近景と遠景で区別するよりも，絵の具の濃い薄いによる空気遠近法の方を取り上げる方が圧倒的に多かった。

（５）授業研究の成果と課題

ア　研究の成果

・ワンポイント鑑賞から自分の表現に役立つ知識を得て，短時間トレーニングで技術を凝縮して学びとることが生徒にとって効率よい学びにつながった。また，鑑賞の時は，同作家の３作品の比較検討を自由に発表させ，観点を絞りやすくしたため，生徒の理解を深めることにつながった。

・制作カードや鑑賞カードをコンパクトにし，わかりやすく毎時に自己評価でき，教師も確認できるようにしたため，制作過程も見通しをもちやすくなった。また，それにより自分に必要な表現を文で記入することにより，細かいプロセスによる段階的思考によって練り上げ，次の表現に生かすことができたととらえている。

・表現活動の分野と鑑賞の分野の連携を図りながら進めるため，制作のための情報を得る活動として学びの必要性をもつことができた。

イ　今後の課題

・ワンポイント鑑賞を表現の授業に生かしていくためにも，できるだけ幅広い題材に連携できる鑑賞作品が必要であり，一つの鑑賞作品において伝えるべき，とらえるべき深い意味をもつ中身の濃いものでなければならない。同時に，綿密な教材研究は必須である。さらに，研究を進めてあらゆる題材に対応できるようにしていきたい。

・立体作品や平面作品の題材のバランスを考えると共に美術を学ぶ楽しさを感じ，美術の学習への意義を学び取れるように学習指導を充実することをねらい年間の題材計画の作成にあたる。

3　研究のまとめ

(1)　成果

ア　つくる体験と鑑賞を結び付け，表現と鑑賞の活動を通して，色，形，材料などに進んで働きかけながら学ぶことができる学習題材の設定について。

【学習状況の変化】
○鑑賞での学びを表現に生かす主体的な学習活動が促進された。
○構図や表現の特徴や，多様な表現のよさや美しさに気付いた。
○表現方法や色彩等の気付きを表現活動に生かせた。
○作者の制作意図を理解し，見方や感じ方を深めた。
【手立ての効果】
・習得した基礎的技能を基に，表したい内容をどう表すかを構想し，自分の思いに，よりふさわしく美しい構成の仕方や表現方法を工夫して表現していくために効果的である。
・児童生徒の互いの気付きを基に話し合いを充実することをは，見方や感じ方を深め，表現意欲を高めたりするなどの学びを深める上で重要である。

イ　感じ取ったイメージをもとに思考・判断し，表現する学習を充実するための学習過程及び，表現方法の工夫について。

①学習過程をスモールステップで構成　　②基礎的技能を身に付ける学習の位置付け
③学習カード等の工夫　　④予想される個のつまずきとそれに対する指導方法の設定

【学習状況の変化】
○児童生徒は，学習に見通しをもったり，振り返ったりしながら学習活動を進めた。
○構成や表現を様々に工夫し，試行錯誤しながら表現活動をすることができた。
○身に付けた方法を工夫し，自分だけの表現方法を発見し製作に生かすことができた。
○学習内容の理解を深め，その学習過程や結果を自らの学びとして実感できた。
【手立ての効果】
・発想・構想する力，工夫し追求する力，必要な技術を学ぶ力などがはぐくまれていたととらえられる。
・児童生徒は学習に見通しをもったり，根拠をもって自分なりの表現方法や価値意識を見付けだしたりすることにつながり学びを深めることができる。

(2)　今後の課題

・対話型鑑賞や，表現と関連付けた鑑賞指導をさらに工夫し，言語活動を充実する鑑賞活動に取り組む。
・個性を生かした多様な創造的活動を通して，何を身に付けさせるのかをさらに明確にしながら学習の内容を系統立ててとらえ年間指導計画を見直しや，学習指導の工夫をする。

関係者一覧

1　研究協力員

常陸太田市立誉田小学校	鴨志田　聡子
（平成19年度　常陸太田市立金郷小学校）	
つくば市立茎崎第一小学校	坂本　白百合
ひたちなか市立勝田第三中学校	成瀬　浩
笠間市立東中学校	堀江　昌代（平成20年度）
筑西市立明野中学校	山下　宗彦（平成19年度）

2　茨城県教育研修センター

所長	中村　一夫
教科教育課　課長	小沼　光一
教科教育課　課長	武井　秀一（平成19年度）
同　　指導主事	清水　明